

無題  
(阿倍仲麻呂)

慕義名空在 輸忠孝不全  
報恩無幾日 歸國定何年

義を慕う 名空しく 在り

解説 遣唐使で唐の国に来て、故郷に帰れない気持ちを詠った詩。

忠を輸すも 孝全たからず

語釈 ※義||人としてふみ行うべきの道。※慕||心がひかれて、なつかしく、また、恋しく思う。※輸||まこころをもつて人に対すること。※孝||人を敬い、よく仕えること。※恩報||務めを果たす。※定||いったい。

恩に報ゆる 幾日も無し

通釈 人のふみ行うべき道を求めて励んで来たが、空しい名声だけがあるばかりである。故郷を離れて唐の国に来て、君には忠を

国に帰るは 定めて 何れの年ぞ

尽くしたが、親には孝行ができない。この先、恩に報いたくても老いてきた今、もうあと何日もなくなってしまった。果たして日本に帰ることができるのは何時の年であろうか。